

COG2025 応募内容確認書

ID	52-26-2
自治体名	広島県
自治体提示地域課題	宮島・原爆ドーム以外にも、素晴らしい観光地がたくさんある！！
チーム名	就実大学
アイデア名	散歩で見つける歴史の背景
チーム属性	学生：学生（ ）だけで構成されたチーム
チームメンバー数	2
代表者	河上 太地
メンバー（公開）	河上 太地, 能勢 啓喜

【確認事項】

- < 応募のPDFファイル名と送付先 > 確認しました。
- < 応募内容の公開 > 確認しました。
- < 知的所有権・肖像権 > 確認しました。問題ありません。

アイデア提案書

チーム名：就実大学

アイデア名：散歩で見つける歴史の背景

該当する自治体名：広島県

自治体提示の地域課題：

宮島・原爆ドーム以外にも、素晴らしい観光地
がたくさんある！！

1. アイデアの全体像

What(何を)、How(どのように)

過去の戦争に関わる観光地となる場所は「原爆ドーム以外にもたくさんあるよ！」ってことを、自分たちが実際にどのような場所なのかを散歩して撮影を行う。そうして得るデータを、グーグルマイマップを使ってマッピングを行い、可視化するのだ。

Who(誰が・誰に)

自分たち大学生が中心となり、さまざまな観光地となる場所のデータを収集する。そして、そうしたデータを地元の人や観光客に公開する。そして、どうなったかの結果を実施した大学の学生に、フィードバックする。また、今後規模が大きくなるにつれて、「誰が」の部分に地元の中学生や高校生と連携して調査を行うようにする。

When(いつ)

2026年4月～6月	散歩・撮影の実施
2026年7月～10月	情報の収集
2026年11月～2月	フィードバック
2026年3月	協力者の募集

Where(どこで)

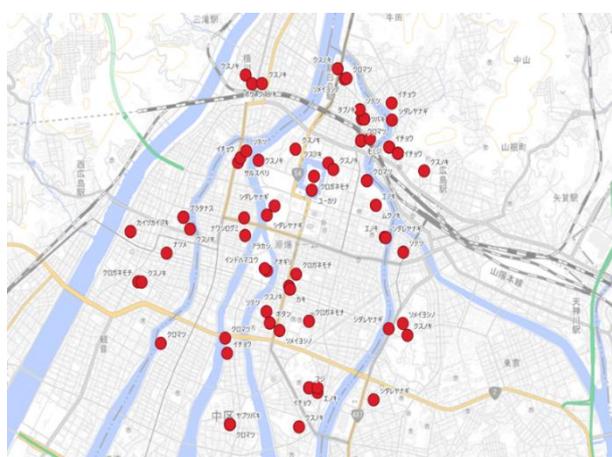
広島県広島市を中心

「過去の戦争のことについて、話をする機会が減ったのではないか？」や「原爆ドームは有名だが、街のいろいろな場所に戦争の背景が隠れているのではないか？」そんな思いから【散歩で見つける歴史の背景】を考えた。

そこで、原爆によって被爆した樹木や思いが込められている折り鶴に着目した。そういった戦争の痕跡や伝承されてきた話にまつわる場所を可視化することで、身近で起こっていたことを学んでもらい、「**未来へつなげる当事者意識**」を持ってもらうことができる。

また、こういった発信活動を行うことによって、原爆について学習や観光目的で来る人にとって、原爆ドーム以外からも知ることができる背景があると知ってもらえるのだ。そうすることで、あまり着目されていなかった場所が観光地として浮き彫りになってくる。

具体的な活動内容としては、実際に伝承スポットに行き撮影し、グーグルマイマップ上に写真と一言を添えて記録をするという活動である。そして、記録したものを可視化することで知らなかった場所を知ることができるのだ。



左の地図(Table1)のように撮影場所に目印をつけマッピングしていく。この時に、家、看板、他人の所有物などを撮影しないように気をつけなければならない。実際に伝承スポットとして行ける場所は、慰霊碑、被爆樹木、原爆ドームのような被爆建物、平和記念公園などが例に挙げられる。

また、登録したデータを地元の方だけでなく、観光客にも閲覧してもらうことが可能である。

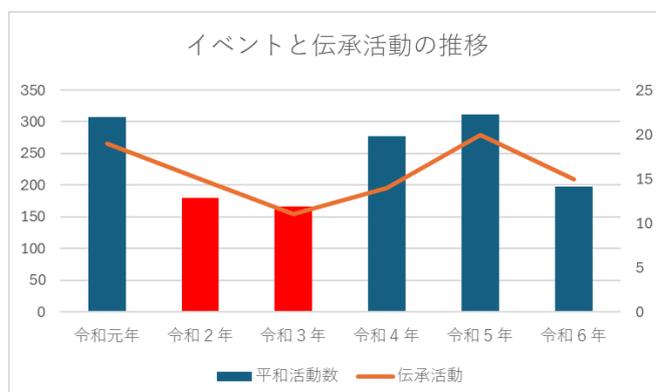
観光客が集まるところに、リンク(QRコードなど)を提示することによって、感想をフォームに書いてもらうこともでき、その場所に訪れる数も増えると予想される。

参考文献

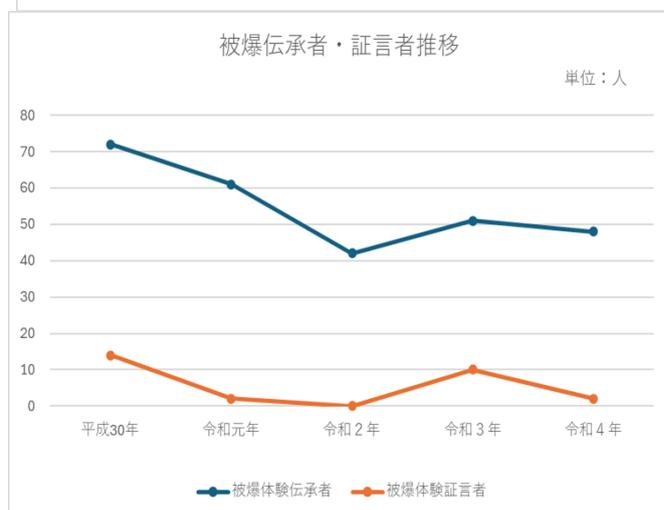
広島県 Dobox データカタログ 被爆樹木

<https://hiroshima-dobox.jp/datasets?keyword=%E8%A2%AB%E7%88%86>

2. アイデアの理由



理由は主に2つある。まず1つ目は、交流が減少しているということだ。左のグラフ (Table2)は、過去の戦争について触れるイベントなどの伝承活動の推移を表したグラフである。令和2,3年のコロナ禍を後に増加したものの、去年である令和6年からは再び減少傾向にある。



また、このような減少傾向にあるもう一つ原因としては、左のグラフ (Table3)も関係していると言える。これは実際に戦争を経験した証言者と伝承者の推移である。今年で終戦から80年が経過しており、高齢化の影響を受けている。伝承者は今後増やすことができる可能性はあるが、証言者の人数を増やすことは困難だと言える。

2つ目は自分の体験談から来ている。自分がまだ小学生の時に、私の祖父が昔よく戦争の話をしてくれた経験がある。当時は何度も戦争の話を聞いていたが、自分自身も小学生と小さく実感が湧かなかった。しかし、そういった話の内容は鮮明に覚えていたのだ。それから10年後、祖父が亡くなった現在、自分はふと思いつきまで忘れてしまったのだ。その時、自分は話をする機会がないと風化してしまうと危機感を覚えたのだ。また昔、祖父から体験談を聞いていたという経験は今となっては非常に貴重な瞬間で忘れてはならないことだな、と感じたのだ。

参考文献

広島広域都市圏・広島県オープンデータポータルサイト 広島市広報課

<https://hiroshima-opendata.dataeye.jp/datasets/1924>

被爆体験伝承者等養成研修の実施

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/shisei/kouhou/1004010/1027485/1005043/1005098.html>

3. 実現までの流れ

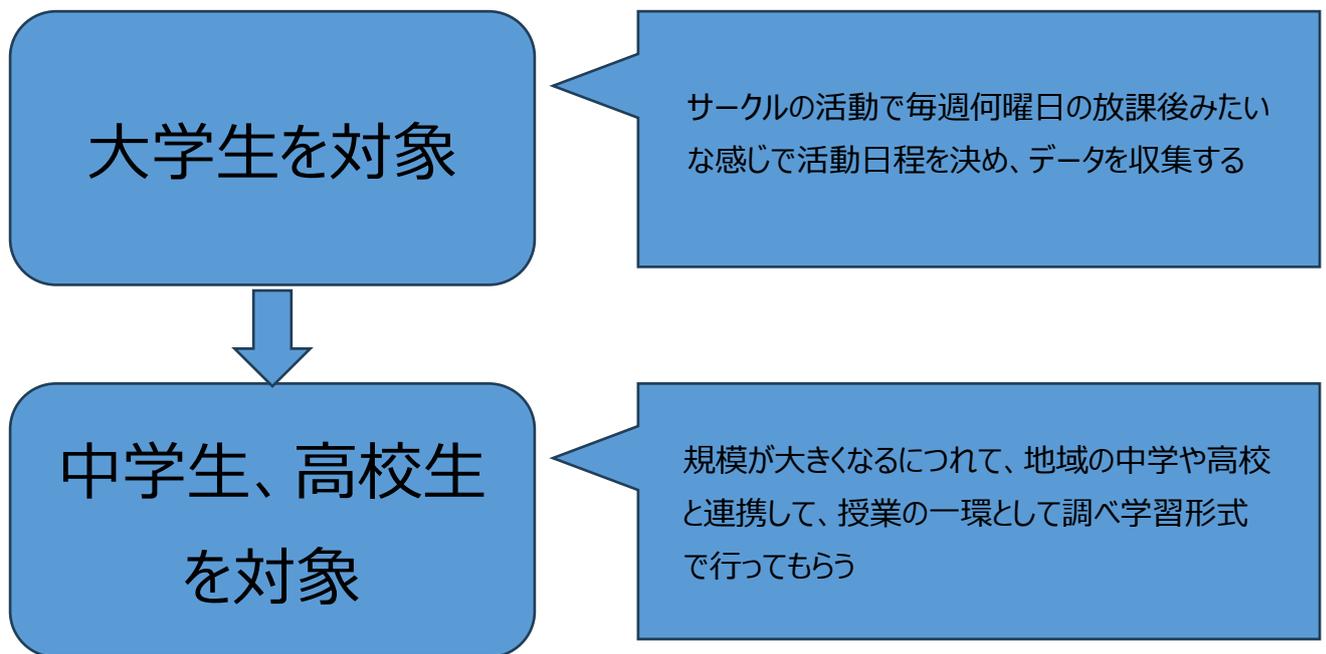
1) 実現する主体: 大学のサークル(組織)

2) 必要資源(ヒト・モノ・カネ)と調達方法

活用ツール…グーグルマイマップ、グーグルフォーム、スマホのカメラ

資金調達…地域での募金、クラウドファンディング

3) 実現までのプロセスと時間軸



一年の流れ

